

大船渡学2023企画 ver1

<教育目標と大船渡学～大船渡学で得られる力・姿勢>

- 真理を求め、自ら主体的に学ぶ姿勢をもつ青年の育成
 - ⇒自分が本当に学びたいものを見つけ、それを自律的に深め続けられる姿勢がある
 - ⇒真理を探究するための基本的な技術を獲得し、様々な事象を論理的に構造化する力を持つ
- 互いに個性を尊重し、敬愛する心をもつ青年の育成
 - ⇒さまざまなちがいが、視点を大切にし、それを組み合わせることで新しい知をつくることができる
 - ⇒他者との学びを大切にし、多様な対話の中から新しい知を生み出すことはできる。
- 心身の調和がとれ、強くたくましい精神力と体力をもつ青年の育成
 - ⇒前向きに楽しく学び、そしてそれを行動に移すことができる
 - ⇒社会の事象に対して当事者性を持って対峙し、よりよい未来を創るという意味を持つ

<2023年度のポイント>

- ・「自走力」をより高める
- ・「一次情報」を大切にする ⇒実体験・五感で得られる情報を大切にする
- ・上記のために、ピアサポートや異学年の力、教員のサポートの仕組みをつくる

【導入:4月～5月】

○テーマ:

- ・大船渡高校で私が一番詳しい知識を使って授業を実践

○求めるアクション:

- ・2年生は20分、1年生は10分で自分が本当に好きなこと、興味があることを使って授業を実践する
- ・受講者は学年合同で7名程度
- ・授業なので、相手が理解できれば、方法はどんな方法でもOK※グループサイズを意識した場の設計を
※第3・第4講義室を使って、各教室1・2年生8人グループ×4島 で授業実践
⇒人数が少ないグループが出た場合は、他のグループの授業を受講する

○到達点

- ・2年生:自分の探究テーマがより深まり、学ぶ意味を掘り下げられている。
- ・1年生:とにかく大船渡学の雰囲気になれる・自分の好きなことを紹介できるようになる

【前期:6月～8月】※夏休みのアクションを含む

○テーマ:

- ・自分の探究テーマと地域・社会をつなげる

○求めるアクション:

- ・2年生は6月～夏休み期間中に、自分の探究テーマに関する一次情報を、地域や社会でのアクションの中で得てくる

(よい例)実際にちがいで悩む人の話を聞いてくる ものづくりの現場で体験してくる 活動に参加する

(やってもいいけど、優先度が低い例)ちがいにに関する大学の先生の話聞いてくる

⇒現場で、五感で体験すること 多数派の意見ではなく、リアルな一人の思いを大切にする活動を

- ・1年生はロールモデルインタビュー

家族・知り合い・友人以外で自分の興味関心に近い人2名以上へインタビュー

※2年生と同様に職業で選ぶよりも、おもしろい、魅力的だなと思う人のお話を聞いてくる

⇒悩んだ場合は、夏の陣のゼミでの学びをそのまま広げて実践することも可能

○到達点

- ・2年生:リアル体験から、自分の学びたいことをより深く、社会につながるかたちで話すことができる
- ・1年生:自分で自分の可能性を広げられるようになる 自分から次の一步を踏み出せるようになる

【後期:9月下旬～2月】

○テーマ:

- ・自分の世界・可能性をひろげることができるチャレンジを実践する

○求めるアクション:

- ・自分の興味・関心に関して、学校の外で「チャレンジ」してみる
⇒なるべく、高校生以外の人とつながりを持つ中で、自分の興味・関心を使ってみる
⇒春休みにさらにこの学びを深めてくる

○到達点

- ・自分が学ぶことが具体化され、学ぶことが地域や世界とどのようなつながりがあるかをイメージできる
- ・実体験から、自分が学びたいことを自分の言葉で伝えられるようになる

【夏の陣 7月】

○到達点

- ・探究との向き合い方を共有する
- ・特に専門分野における知の使い方を学ぶ

○内容

- ・1・2年生の担任・副担任全員が、それぞれの専門性をもとにしたゼミを持ち、そのゼミで探究を深め、その成果をワークショップ形式で共有する

○進め方

0日目①(7月6日)

大船渡学夏の陣の導入 教員の各ゼミテーマおよび概要の共有 志望理由書の書き方説明

0日目②(7月13日)※体育館での一斉開催

ゼミ選択プレゼン大会 教員が1人10分で自分のゼミで何をするのか、どのような魅力があるかをプレゼン
⇒7月14日までに1・2年生は志望理由書を記入(部顧問みたいな理由ではなく、なぜ学びたいかを記入)

※志望理由書をもとに、7月18日までにゼミメンバーを決定(1教員あたりゼミ人数の上限は25名程度を想定)

1日目(7月20日)

チームビルディング ⇒ゼミ内でさらに4日目のワークショップを行う異学年3～5人チームの設定

ゼミに関する基本情報の共有 ⇒教員設定テーマにおける基本情報のレクチャー

宿題の共有 ⇒ この夏の陣の間にグループで解を構築する「問い」の共有

(問いに関しては、ゼミ内の全チーム共有の問いでもよいし、各チームに問いを割り当ててもよい)

フィールドワーク or 実験に向けた基本準備

2日目(7月21日)

フィールドワーク or 実験の日

⇒朝は現地集合(学校可) 12時10分までに学校に戻り、ふりかえりを実施 ※3日目までの宿題も提示

⇒フィールドワークではなく、学校で実験や関係者へのヒアリング等も可 ※可能な限り実体験に触れる機会に

3日目(7月24日)

未知なる問いに向けたグループ活動※ゼミによっては、さらなる実験等も可

・フィールドワークでの経験と文献などの情報をもとに宿題にむけた解づくりを行う

・これまで得たことを共有するワークショップの準備を実施

4日目(7月25日)※夏の陣公開日

ゼミ設定テーマによるグループごとのワークショップデー ・1つのワークショップあたり20分を想定

・1日目にゼミ内で設定した3～5人のチームで、1日目に割り当てられた問いに関するワークショップを実施

・ワークショップに入れる内容としては、 ・1～3日目に得られた知識を含めた、そのテーマの基本知識の共有

・チームメンバーも含めた、その問いに関する検討の実施⇒何らかの解をつくる ・検討した解の共有・深化

5日目(7月26日)

ゼミ内でのふりかえり これまでの学びおよびワークショップでのふりかえり

⇒一緒に今後の夏休みでどのようなアクションを行うのかを夏の陣の経験をもとに共有する

全体ふりかえり ⇒ゼミばらばらで学んだことを共有する

2023年度大船渡学 スケジュール案 ver1

	1年生	2年生
4/27	オリエンテーション＆※授業チャレンジ導入	オリエンテーション＆※授業チャレンジ導入
	※ゴールデンウィーク中に、関係する書籍を読んで授業準備	
5/11	合同 2年生授業チャレンジ① 大高で私が一番詳しい知識で1人20分の授業×2 ※公欠者優先	
5/18	合同 2年生授業チャレンジ② 大高で私が一番詳しい知識で1人20分の授業×2	
5/25	合同 1年生授業チャレンジ 大高で私が一番詳しい知識で1人10分の授業×4	
6/1	-	授業チャレンジふりかえり＆アクション導入
6/15	合同 自分らしい学びとは～いろいろな探究との向き合い方を共有する～	
6/29	夏休みアクションに向けた導入	-
7/6	合同 夏の陣の導入 ～ゼミでどのように学ぶのか～	
7/13	合同・各教室 教員ゼミプレゼン 教員による私のゼミ10分プレゼン ⇒ 志望理由書エントリー	
夏の陣 ⇒ 教員それぞれがゼミを持ち、レクチャー、フィールドワーク、ワークショップをグループ単位で実施 ※夏休みのアクションを教員からの宿題という形式で進めるの也可		
夏休み 1年生 ロールモデルインタビュー(2名以上、当事者に近い方のお話を聞いてくる) 2年生 「Learning Zone」「Growth Zone」での学びの場を創造する・構築する ※何かチャレンジ ⇒必ず、一次情報を得る(自分の五感で学びを得る)活動を実践する ⇒夏の陣での経験をさらに広げるという選択肢もOK		
8/24	合同 夏の陣のゼミ単位で、夏休みでのアクションふりかえり・プレゼン資料作成	
9/7	合同※体育館 (6月15日と同じグループ) 夏までの経験をもとにこれから学びたいことプレゼン	
9/28	後半戦オリエンテーション	後半戦オリエンテーション
10/12	-	探究実践プランの作成・確認
11/2	探究実践プランの作成・確認	-
11/30	合同 探究の進捗状況の共有・ブラッシュアップ	
12/7	冬のアクションに向けた準備＆面談	-
12/14	合同 冬の陣の導入 チームビルディング	
冬の陣 ・哲学対話をやってみる ～そもそもを深める対話の場づくり～ ・課題解決モデルの実践 ～課題とな何か、斜め上の提案づくり～		
冬期間※10月～から随時実践 1・2年生ともに 自分の世界・可能性をひろげることができるチャレンジの実践(一次情報に触れる) ※必ず地域のパートナーと実践する		
1/11	冬のアクションのふりかえり＆2月の成果共有ハ	冬のアクションのふりかえり＆2月の成果共有ハ
1/18	そもそもの探究を考える	-
2/1	春休みのさらなる探究活動に向けた導入	これまでの探究と志望理由書をつなげる
2/22	この2日間はうまく授業時間をつなげながら、各学年の成果共有＆ふりかえりを実施 ※可能であれば2コマいただけるとありがたいです。	

※進捗状況により、内容は変更する場合があります。